

【静岡サレジオ幼稚園】

(スタッフふりかえり)

◆スタッフ①:

では、今日はありがとうございました。園児さん達が楽しそうに帰っていったので、まずはよかったです。今日は森での発見や観察を通して園庭と森との自然の違いに気づくことができる、園庭や近くの公園での観察や自然遊びがもっと楽しくなるということがねらいでした。このねらいに対してどうだったかというところをぜひ、お聞きしたいと思います。

◆スタッフ②:

子どもたちはだいたい年少と年中で2回来ています。もう遊木の森を知り尽くしているという感じでした。だから、私が何もしなくても自分たちで勝手に遊びを考えてくれました。なので、最初に私は、こちら側から入って、山を途中まで行って、下りてここに帰ってくるというふうにやりましたが、子どもがその探検をしたいと言いました。その探検の先にポストがあることをもう知っているから、それをやろうと言って、そこへ行ってアオキの葉っぱにいろいろ書いてポストに入れました。そういう遊びです。それもきっと年中の時か年少の時か知らないけれども、自分たちが何回かこちらに来てやっているのでしょう。それをやりたいと言うから、ではそれをやろうということで、とりあえずやりました。その後、そこへ来て、私がサシガメを見せて、「これは危ないから触ってはだめだよ」と説明をしました。それから後はお山を登って行こうと思ったけれども、なかなか時間的な制約もあるもので、この裏から直接、清水建設の森の方を登りました。清水建設の森から登って、結構途中の道は草が刈ったばかりで悪かったのだけれども、勝手にどんどん上がって行って、キノコを見つけていました。いろいろなキノコやそれから、カマキリです。カマキリを見つけて、カマキリをこの中に入れようと思ったらカマキリが入りませんでした。こわいというので、それで逃がしてしまいました。子どもたちもみんな逃がしてやろうと言うから、それで済みました。その後で今度は葉っぱみたいなものを持って来て、これで釣ったらどうだということになりました。子どもたちは遊びをいろいろ考えます。そんなことでワイワイと回ってきましたけれども、時間的に少なくても、もう少し時間があつたらいいなと先生もおっしゃっていました。だから、また今度来る時はこちらでご飯を食べるようなプログラムをしたらどうかという話もしました。そんなところです。以上です。

◆スタッフ③:

まず、いろいろなものを見つけるのが本当に上手な子がいて、見つけてきたものを持って来て教えてくれました。いろいろなくつつくものやふわふわのものなどを持って来ました。とにかく何かを持って来たというのではなくて、五感を使ったような言葉を使って持って来てくれたのが印象的だったと思います。その後、本当は私は2本目の階段を上がってきたのだけれども、子どもたちはちょうど目の前に見えているこを上げて行きたいということでした。「どうして？」と聞いたら、「こちらは自然がたくさんありそうだから」と言って、どんどん上がって行きたいと言います。でも、こちらでまだ遊びたい子もいて、そこをまとめて連れて行くというのが難しかったです。そちらの方の子どもたちの希望するところから上がって行って、一人の子が笹を耳のところに当てたので、「うさぎみたいだね」と言って貼ってあげました。それがよかったのか悪かったのかわかりませんが、どちらかという悪い方に働いてしまったと思うのですけれども、それぞれピクミンになったり猫になったりして、「貼って、貼って」になってしまいました。だから、少し失敗したと思いながらも貼りつつ、進んで帰って来ました。途中

の分かれ道で「こちらもあるしこちらもある」と子どもの方から言ってくれたので、「では、どちらに行きたい？」と聞いたら、下に下りて行きたいという子が圧倒的多数だったので、「誰が通るだろうね」という話をして、「僕が通る」と言う子がいたら「人間が通るには少し狭いかな」なんて言いながら、「ここは、動物が通った跡だね」という話をしていたら、けもの道をどんどん見つけるように「ここにもあるよ、そこにもあるよ」と言ってどんどん進んで行ってくれたので、時間的になんとかこちらに帰って来られたという感じがしました。帰りにこの集まる前にゆっくり進んで行って最後のけもの道で走ったぐらいだったので、不完全燃焼だったのかやはり上に上がりたようでした。上に上がるには時間がないと思ったので、1段上がって探検したい人は1段上がって降りてきて、少し怖い子はまっすぐ行こうと言って、上がれる男子は上がってから降りてきて、その下で受け取りをしました。そんな感じです。でも、みんなも楽しかったと言ってくれましたが、森と園庭の違いに気づけたかどうかは疑問が残ってしまっただけですけれども、楽しく帰ってもらえたので、よかったかなと思いました。以上です。

◆スタッフ④:

子どもたちも本当に慣れているのか、それとも見る目を持っているのでしょうか。キノコ類は、特にさかんに見つけます。

◆スタッフ①:

キノコ博士がいたチームでしょうか。

◆スタッフ④:

そうです。それで、先生が「そのキノコも〇〇くんに聞こうね」と言っていました。キノコをやたらと見つけます。「これは、違うな」、「こちらにもこんなキノコがあるよ」と、はじめその辺からどんどん子どもに引っ張られて行った感じでした。そんな感じでキノコで始めました。そして、やはり下を見るようになったら、アオキの少し変形した実が落ちていて、それを見つけてました。そういうものを拾って歩きました。フユイチゴも見つけられてしまったので、停滞してしまいました。「これは後でのお土産だから食べてはいけませんよ」と言って説明しました。「これは甘くてジャムにできるけれども、今日はないです」というのが大変でした。みんなで探してみんなで採っているので、やはり知っています。でも、それはそれでみんながいいのでしょうか。

あとは、シデの実を持って種飛ばしをやりました。それは、まあまあでした。それを前提にして、今度は落ちていて種に気づかせようと思ったのですけれども、そこまでの時間がありませんでした。道路に這いつくばってじっと寝転んでしまってもいいから、地べたにうつ伏せになって探させようかなと思ったけれども、その時間がありませんでした。慌てて何かないかなとみんなで探してその種を追いかけさせたかったです。あとは、子どもによって興味がいろいろと違うので、みんなの意見を一つ一つ聞いていると、なかなか前へ進めません。その辺が少し大変でしたけれども、なるべく子どもの話を聞くように努めました。

◆スタッフ⑤:

最初ひなたぼっこで寝転びをしたのですけれども、その時に匂いのする葉っぱがあったので、揉んでいたら、「なんかおいしそう」という声があって、「これは、お茶にしてもおいしいよ」というところからみんなが「これは？これは？」と、採ってきた葉っぱを食べられるかどうかみたいな話に進んでいきました。「食べられるけれども、今日は食べてはいけませんよ」という話で、けれどもみんなはとにかく食べたいと言って、「じゃあスタッフ⑤が食べろ」と言われたので食べました。「こういう味で、これは少し酸っぱいよ」と言っていたら、先生も興味を持って、お母さんたちが「大人ならいいかな」ということになって先生たち

は食べてくれました。「本当だね。大人味だね」というな話をして、「みんな、お母さんに聞いたら食べていいよ」と言ったら、みんなでそれを採っては「これは？これは？」と食べられるかどうかを聞いていました。柔らかい実や種をこの形は違う、違う種類だから味も違うかということを考えて、「お母さんに聞いて食べてみようね」ということで、今日は食べるもの探しになりました。ですから、結構上に行きたかったのですけれども、原っぱで終わってしまいました。トイレに行きたいという子がいたから、トイレの方に行ったら、「実はこれも食べられるよ」と、またみんなで拾って中を分解して、「皮がある」などと言って、これは食べられるかどうかの遊びのようなことをしました。そういう感じで今日は食べられるか食べられないかの違いを発見するみたいな流れになりました。

お山に行きたいという子もいたので、時間的に厳しいから「こちらに行ってみよう」と言って、着いたらやはりフユイチゴを見つけました。「これを食べたことがある」という子が1人いて、「おいしいけれども、でも今日は食べられないね」と言って、それもお土産にしようということで採りたい子は採っていて、でもお手紙のことを覚えていたので、お手紙遊びが始まりました。知らない子もいて、「どの葉っぱ？」と言ったら教えてくれる子がいて、引張ってあげて葉っぱを採らせてくれる子もいて、すごいいい関係だなと思いました。そこでフユイチゴを摘む子と、手紙を書く子がいたり違う実を探したりする子がいたり、それぞれの遊びが割と広がった感じでした。でも、もうすぐ振り返りだったので、その最後の時に「食べられるものが遊木の森にはあるのだね」と言っていたから、そこが園との違いが分かったのかなと思います。「園と違うね」までは言わなかったのですけれども、私もそこでこういうものもあるのだなということは分かってくれたかなという感じです。先生が「他の園は食べるのですか？」って言っていたので、「OKのところも割と多いです」と言ったら、「どうしたらいいのか」と聞かれたから、「やはりアレルギーの子を事前に親御さんに聞けばいいと思います」と答えたのですけれども、どうでしょうか？

◆スタッフ①:

そうですね。園の方では「アレルギーの子がいて食べられないとかわいそうだから、やめます」という回答だったので、多分そうだと思います。

◆スタッフ⑤:

そうだったのですね。では、それでだめということにしてあったのですね。残念ですね。

◆スタッフ①:難しいですね。

◆スタッフ②:アレルギーがあるのですね。

◆スタッフ①:今、いろいろあるみたいです。

◆スタッフ⑤:そうですね。イチゴも果物もだめな子いますよね。

◆スタッフ①:

普段食べていないものだから、親もアレルギーを聞かれても分からないものもあります。

◆スタッフ②:「フユイチゴを食べていいですか？」と聞かれても分からないですよ。

◆スタッフ①:フユイチゴは、食べたことないですよ。

◆スタッフ⑤:

とにかく今日は食べていいかは「お母さんに聞いてね」と言って、終わりました。

◆スタッフ⑥:

今日は先生曰く「一番元気な子たちが集まっているグループです」と言われて、たしかにそうだという感じでスタートしました。ここから山を登ろうと思っていたので、この上のアスファルトのどこからアイスブレイクしていきたいなと思いました。まず下りた時に「園と遊木の森は、どう違う?」と言ったら、「広い! 遊具がない」と言いました。それで、ないものではなくて「では、あるものは何?」と聞いたら、「枝がたくさんある」、「あの葉っぱがたくさんある」と言っていました。バスに乗って来ると急にいる環境が変わるという違いが大きいので、降りた時に視覚でもいいので、一度違いを気にした方がいいかなと思って、そのようなことを聞きました。来る間にヨモギをプシュプシュと触って慣らし、アイスブレイクで「準備体操ね」と言ってやったのですけれども、今あまりいい香りがする時期ではないので、「臭い」と言う子が多かったです。その横にひつつき虫がたくさんあったのですけれども、1人の男の子が「この植物は進化する」という言い方をしました。1個の中にお花もあるし、くつつく部分もあるし、黒いチクチクもあるし、よく考えると、花が咲いて実が成って種が成ってという一緒にそこにあるというのが面白い植物だなと私も改めて思ったし、子どもから進化する植物だという言葉が出たのは、面白いと思いました。その栗の木の下でイガ拾いが始まってしまって、なかなか時間がそこでかかりそうだったので、栗の木の下でみんなを集めてもう一度挨拶をして、この子たちがガチャガチャといろいろな興味が向く子が多いなという感じだったので、山を上げるのにつまみを作った方がいいなとは思っていました。「今日、周りをよく見てごらん」と言って、「葉っぱが色を変えていたり、落ち葉があったりするでしょう。こういうものは木が冬の準備をしているんだよ」。昨日、わんぱくで小学生にも言ったお話だったのですけれども、「その準備をしているよ」というお話をし始めたら、やはりきちんと聞く態勢ができてきて、「こういう赤い実がたくさん成っているのは、鳥に食べてもらって遠くに運んでもらうためだよ」ということも少し最初にお話しして、他にもいろいろ赤い実があるかもしれないから、最初は赤い実探しをしながら行きました。

◆スタッフ④:ヤブコウジですか?

◆スタッフ⑥:

そうです。ヤブコウジが次に現れてという感じで、実のつき方が違う、大きさが違うということに気づく子もいて、実の大小は幼稚園児の年齢になると理解できるので、そういう言葉が出てきたという感じでした。日当たりがいい道を歩いていた時にカマキリが2匹も出てきて、女の子たちは「いる、いる」としか言えないけれども、そこで勇敢な男の子が2人、サッと捕って虫かごに入れて大事に下まで持って来ました。下に下りてきてから、今度こちらの森に行きました。日向のカマキリのいる温かい森とこちらの少し湿り気のある少し暗い森というのが「違うね」と先生が最初に言ったのですけれども、子どもたちが「ここは、ぬるい森」、「冷たい森」という表現を少しするようになりました。こちらはフユイチゴがあるのを私も分かっていたので、こちらはもっと柔らかくて潰れてしまうようなものがあるということで、赤い実探しを楽しみました。最初、赤い実と言うと、男の子たちは驚きみして採ってしまうので、それもよくないなと思いました。先生が一生懸命「森の生き物も捕るからね」と言ってくれるのですが、子どもたちになかなか理解できないので、これの中に入る程度でカップを用意したら、自分で加減して捕るようになったので、そういう具体的な表し方をするのも大事だと思いました。私の方は、フユイチゴとアオキの葉っぱに字を書くというのを誰もやったことがなかったみたいでした。なので、新鮮な感じでやる子はやるし、カマキリが気になってずっと見ている子は見ているという感じで、その辺はみんなの興味の向くことということでよかったかなと思っています。一応、こういう黒い布を広げて、みんなにカップの中身を並べてもらって、自分のお気に入りは何かを

みんなに少しずつ聞きました。その時もまたトイレに行きたい子がいたので、その子は行っていましたが、みんなでお気に入りを見せ合って、それで振り返りという感じで終わりました。元気がよかったし、カマキリも登場してくれて赤い実もたくさんあって、楽しいお散歩になりました。

◆スタッフ①:ありがとうございます。

◆スタッフ⑥:

園庭でそういう実があるかどうか、植物によってもつき方が違うところは、楽しみながら学べて帰れたかと思います。

◆スタッフ⑦:

自由な人が多くて、思っていたよりも自由だったから、元々の手立てとしては、園庭との違いというところで広いこの広々とした感じを体全体を使って体感してもらえばいいなと、原っぱでごろりとした時に寝転がった時にしか見えないような景色が見えたらいいなと思いました。最近の子どもたちの発言がなかなか深いと思って、「生きている、生きていない」ということをみんなで話せたらいいなと始めたのですが、とてもそこまでは行かない感じでした。一部の子は、少しは思ってくれたのかもしれないのですが、子どもたちが最初は虫捕りに夢中になってしまって、クモにカーカー言っていました。でも、蝶々は素手でどんどん捕まえてしまって、鱗粉が落ちているからとどンドンぐったりしていく蝶々がケースに溜まっている感じで、かわいそうだからやめようと言いました。ミツバチもひつつき虫の黄色いお花のところはかなり来ていたので、よく見ていると「黄色いところにしか行ってないね」とちらっと言ったら、「ミツバチは蜂蜜を作ってくれるよね」と今まで何も喋らなかった子がポロっと言いました。虫も嫌なだけではなくて、いいこともしているみたいな感じで話しました。葉っぱに穴が開いているのは、これは虫が食べたのではないかという話やひつつき虫もくっついて運んでもらっているのではないかなど時々いいことを言っているなという感じで過ごしました。

葉っぱでごろりとした時に空を眺めながら、一生懸命耳を澄ませたのですが、ちょうど何も音がしない時で、タイミングがだめだと思いました。朝、平沢観音にちゃんとお祈りして来たのにも思いました。いまいち運がなかったです。けれども、ちょうど枝で大きめの枯れ木を叩いた音について言っていたので、前に来た時のことを覚えているのかなという感じはありました。取り留めのない感じの1日だったような気がするのですが、カヤの実も結構みんなが匂いを嗅いでくれて「ああ、いい匂い」と言っていました。帰りには、「ウェットティッシュをください」と、ベトベトになってしょうがなくなっていました。エノキの実もギュっと押したら潰れて、中からオレンジ色の粉が出てきたのもみんなが積極的に匂いも嗅いでくれたので、お家の近くや「サレジオの森でもやってね」とは声をかけました。

ヒヤリハットがあります。ハゼの葉っぱの綺麗な先端が赤くて全部くっついたものを「綺麗」と言って持って来たので、「これは触らないでください」と言いました。あとは、栗のトゲで「痛い」と言ったので、洗って絆創膏を貼りました。それから、草で手を切って少し血が出た子がいました。

◆スタッフ⑧:

一緒に行ったのですが、本当にまとまりません。というのも、やはり興味がそれぞれにあって、それは逆にいいことで、周りを気にしないというのもあるのですが、本当に自分の興味に行っていたので、その子なりにいろいろ見つけています。やはり最初に「赤い葉っぱがあったら、危ないから触らないでね」というお話を話して、そしたらやはり1回躊躇して「これは、大丈夫かな」と自分なりに考えていました。本当に薄い葉で、それは

ハゼではなかったのですけれども、「大丈夫かな」と不安になっていて「これは大丈夫だよ」って言って、それでそっと触りました。「ここに蜘蛛の巣もあったから少し怖い」というのも話しながら、言葉にしながらかやってくれていました。やはりまとめてみんなで一緒に行くのがなかなか難しいグループだったのですけれども、その場、その場で興味を持ってみんなが集中して見ていました。1人の男の子が「昨日買ったばかりの靴なのに汚れちゃったよ、もう」みたいな感じに少しキレたのですが、その後にキノコを見つけて、そこがすごく嬉しかったみたいで「うわー」と言って椎茸を採って、すぐ匂いを嗅いでいました。こちらが言わないのに、匂いを自分で嗅いでいました。そしたら、なぜかポテトの匂いと言っていました。「最初にこの匂い嗅いでみて」と声かけしたのもあったと思うのですけれども、最後の方はみんな匂いを嗅ぐまでがすごくスムーズになっていました。五感を使うところは、すごくよかったです。あとは、少し空を見上げると、風があったので葉がはらりと飛んで、「葉っぱが飛んでいる」という気づきの声もあって、「どうして飛んだのだろう」って言ったら、「風があるからだよ」と気づきがあったので、それぞれにみんなバラバラだったのですけれども、集中しているというのは感じられました。以上です。

◆スタッフ①:

ありがとうございます。今回、先生同士の連絡が少しくまいていかなかったのは申し訳なかったです。

◆スタッフ⑤:少しありましたね。

◆スタッフ①:

園長先生が「こういうところに行くと本当に個性が爆発しますね」とおっしゃっていて、やはり普段とは違うよさが出ているのだろうなと思いました。

◆スタッフ⑥:全然違いますよね。

◆スタッフ①:

去年もそうだったのですけれども、園に帰ってから今日の写真を見て一人一人振り返りをして、言葉にしてくれているらしくて、遊木の森での姿とは少し違うようです。多分、先生方がうまく振り返りをしてくださっていると思うので、どんなことを言っていたのか、また聞いてみたいですね。

◆スタッフ⑥:写真を見たら思い出しますよね。

◆スタッフ①:

言葉にするのも上手な子たちですね。

◆スタッフ④:

ヒヤリハットで、サシガメを掴んでしまった子がいました。みんなで見ようかと思っていたらサッと手を出してしまい、「だめだよ」と言いましたが遅かったです。

◆スタッフ①:他にヒヤリハットはありますか？

◆スタッフ③:

私の班の子も指にトゲが刺さったと言って、付き添いのお母さんに見てもらっていました。

◆スタッフ①:そのくらいなら大丈夫ですね。

◆スタッフ②:

靴擦れがありました。「靴下に何か入っているのかな」と言って先生が見てくれたけれど靴下を脱いでも入ってなくて、「靴が小さいのではないかな」という感じの人が1人いました。それ以外は大丈夫でした。本当にうちのところも自由なものだから、分かれ道ではあちらに行きたい、こちらに行きたいというのは多数決で決めさせました。それで、遊びも「こちら入って遊びたい?」と聞いたら、遊びたいという子と遊びたくない子がいて、やはり多数決で決めました。そう対応しました。結構自分たちで経験しているかどうか分からないけれども、例えば木の枝で太鼓をやったりして、みんななかなかですよ。

◆スタッフ④:木の枝を拾って、園に帰ってクラフトを作るという子もいましたね。

◆スタッフ①:いましたね。3年目だといろいろ、それぞれで楽しんでますね。

◆スタッフ②:3年続けてやったというのがよかったのではないかと思います。

◆スタッフ①:本当にご協力ありがとうございました。